

バイオコモ株式会社



福村社長

バイオコモ株式会社は、三重大学の技術を基に設立されたベンチャー企業で、感染症等に対する遺伝子組換えワクチンの開発を主要な事業としています。三重県発のワクチンを開発し、世界的規模で医療・社会問題化している感染症の撲滅を目指す福村代表取締役は、その夢を語って頂きました。

エイズ、マラリア、成人結核の3大感染症で各々年間200万人近い人が亡くなり、WHO等はワクチン開発の必要性を強く求めています。ワクチンは25程度の感染症にしか存在せず、

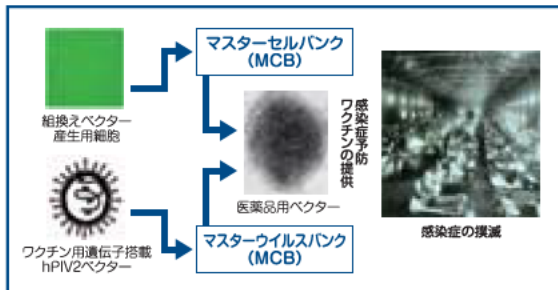
3大感染症をはじめ50程度の感染症にはワクチンはありません。理由は原因ウイルス等の弱毒性・不活化による従来法のワクチン開発が困難及び発症が開発途上国中心で数百億円の開発コスト回収が困難な点が挙げられます。しかし、遺伝子組換え技術導入による採算性の向上、社会的要望により、海外製薬会社は積極的に新規ワクチン開発に乗り出しています。遺伝子組換え子宮頸がんワクチンは、高い有効性と年間1000億円以上の売上があります。当社は、三重大学大学院医学系

研究科の河野氏らにより開発されたヒトライオンフルエンザ2型ウイルスベクターを用い、当大学及び独立行政法人医薬基盤研究所霊長類医科学研究センターと共同で遺伝子組換え感染症ワクチンの開発を目指しています。既に、動物試験で高い結核菌増殖抑制効果が示され、実用化に向け医薬品用ベクター製造技術の開発段階にあります。開発には多額の開発費用が必要で、みえメディカルバレー及び経済産業省の研究補助事業に採択されています。

社名のバイオコモのコモは私の出身地の菟野町に因ってつけました。「三重県産ワクチン」が世界に通用することを信じて日夜頑張っています。

本社

〒510-1233
三重郡菟野町菟野1325番地
TEL/059-392-7333 FAX/059-392-7333
URL/http://www.biocomo.jp/
創業/平成20年5月30日



健栄製薬株式会社 松阪工場



かつては、病院などの医療機関等特別な場所で見ることのなかった手指消毒剤も昨年のインフルエンザ騒動ですっかりお馴染みになりました。今回は、手指消毒剤のなかでもジェル状の手指消毒剤で国内トップを走る健栄製薬株式会社松阪工場の藤原工場長にお話を伺いました。

当社は大阪市中央区伏見町が本社で、松阪市には平成6年に立地しました。松阪を選んだ理由は、医薬品メーカーにとって大量のきれいな水が不可欠だからです。現在、社員は総勢で400人弱で、うち松阪工場が150人です。

当社の主力製品はアルコール等を主薬とした消毒剤や浣腸などの医薬品や食品添加物を製造しているほか、大手医薬品メーカーからの受託製造も行っています。松阪工場で製造する「手ピカジェル」は、昨年のインフルエンザの際に大活躍しましたが、仕事はこれまでにないほど多忙を極めました。手指消毒剤はいろいろな種類がありますが、スプレー式の消毒剤

は床などに飛び散るため、3年前に当社でジェル状の手指消毒剤を開発しました。インフルエンザの流行で、消毒の重要性が認識されるよ



うになり、「手ピカジェル」が病院だけでなく、自治体、飲食店、企業、学校や一般家庭にも浸透してきています。今年に入って、インフルエンザが収まったように見えますが、油断は禁物です。インフルエンザは毎年12月から3月にかけて全国的に猛威をふるうため、予防の観点で日頃から家庭内外での消毒の励行は続けて頂きたいと思っています。

当社では、必要に応じて、医療機関の関係者に対してセミナーなどを開催して、消毒についての普及啓発に努めております。メディカルバレー事業でも、感染症の予防などについての情報発信を期待しています。

松阪工場

〒515-0053
松阪市広陽町25番地
TEL/0598-29-6171 FAX/0598-29-6170
URL/http://www.kenei-pharm.com/
創業/1946年12月3日